

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「プロントの挑戦 “ごみを商品に” コーヒー豆かす再利用したエコ植木鉢」
- 2) 「大阪ステーションシティ “時空の広場” に巨大花壇 安藤忠雄氏」
- 3) 「トビウオ丸ごと 濃縮だしが自販機で買えます」

1) 「プロントの挑戦 “ごみを商品に” コーヒー豆かす再利用したエコ植木鉢」

コーヒーチェーン「プロント」を展開するプロントコーポレーションは、コーヒー豆のかすを再利用した植木鉢「CAFE TSUCHIKO (カフェ ツチコ)」を商品化した。

これからのクリスマスシーズンに向け、グループ会社のサントリーフラワーズがオーストラリアの合弁会社で開発した植物「プリンセチア」を植えたギフトを11月30日まで限定販売している。今後、鉢の改良を進めるほか、季節ごとの植物とセットで販売することなども検討し、リサイクル率を上げていく。

ツチコはコーヒー豆のかす30%、杉の間伐材70%でできた100%植物由来の植木鉢。中で育てた植物が大きくなって庭などに植え替える際、鉢ごと植えることができる。不要となったときは、砕いて埋めると土に還る。

植木鉢の機能としても、細かな空気穴があるため十分な空気を取り込むことができ、根腐れが起きにくい強みがあるという。

コーヒーチェーンである同社が最もリサイクルを進めたいのは、コーヒーを抽出したあとに残る豆かす。その量は1日あたり2トン、年間730トンに上るといふ。それまでも壁や机に練り込むなどでリサイクルしてきたが、すべてを再利用することはできなかった。

その時出会った、間伐材をリサイクルして植木鉢を製作しているメーカーニ、コーヒー豆のかすで応用できないか相談したところ、「ごみを商品にしたい」とリサイクルに取り組んできたメーカー側が共同研究を快諾し、開発に至った。

豆かすは釜でさらさらの炭になるまで焼き、チップ状の杉粉と混ぜて固めている。コーヒーの香りを目指したものの、配合比率が高い杉の良い香りが勝っており、引き続き工夫を重ねていきたいという。

第1弾のセットに選ばれたプリンセチアは、クリスマスシーズンにおなじみの「ポインセチア」をサントリーが改良したもので、花言葉は「思いやり」。森谷氏は「大地からもらった豆をおいしくいただいて、また大地にかえすという、ツチコのコンセプトにぴったり」とうれしそうに話す。

ギフトは葉の色別に「ルーージュ」「ホットピンク」「ピンクホワイト」の3商品で、ともに2980円。サントリーフラワーズのウェブサイトで注文を受け付けている。売り上げの一部は東日本大震災の復旧・復興支援、全国の緑化活動などに充てられる。

プロントではほかにも、料理を1品注文するごとに10円を寄付する取り組みや有志ボランティアでの環境活動などを実施しており、外食産業の環境パイオニアを目指す。

カフェという形態を取っている企業にとって、頭の痛いコーヒーかす。肥料や消臭剤など、利用方法は色々考えられており家庭レベルの量ならそれで事足りるが、企業となると毎日の量の桁が違う。各社様々検討して、面白い取り組みはどんどん取り入れて欲しいと思う。

2) 「大阪ステーションシティ “時空の広場” に巨大花壇 安藤忠雄氏」

大阪ステーションシティ 5階「時空（とき）の広場」で10月29日、フラワーイベント「フラワーアートミュージアム2012」が始まった。

建築家で大阪府・大阪市の特別顧問を務める安藤忠雄さんが「殺風景な広場を花で埋め尽くしては」と提案したことがきっかけで実現した同イベント。一辺約4.8メートルの花壇30区画に、ブルー、ピンク、レッド、ホワイト、パープル、イエロー、オレンジの7色35種類、2万ポット以上の花が用意され、680平方メートルの花畑が広がった。

花壇には1月-12月のQRコードが設置され、携帯電話から自分の誕生月のコードを読み込むと誕生日を入力する画面に遷移。入力すると誕生花や花言葉、今週のラッキーカラー、ラッキーフラワー指数などが表示される仕掛けが用意されている。広場では全日、同館での商品購入者（2000円以上）を対象に「花のメモリアルノート」を各日先着200人に配布する。

期間中、特設ステージではポップス、ジャズ、クラシックなど「花の色彩と美しさ」をテーマにした「花のハーモニーライブ」を展開。参加料500円で押し花アートやフラワーボックスを作るワークショップも開催。最終日には、同館での買い物客に花壇で使用した花を進呈する。

初日のオープニングセレモニーに登壇した安藤忠雄さんは「地上20数メートルに広場があり、空中でコーヒーが飲めて空中で花を見られる駅はほかにないのでは。企業も個人も誇りある大阪を作るために頑張ってくださいスタートに、この企画がなれば」と期待を寄せる。開催時間は8時-23時30分（最終日は18時まで）。ライブやワークショップの開催日時はホームページで確認できる。11月11日まで。

時空の広場は今までもイベントスペースとして使用されていたが、仮設ステージや柵で囲う程度のイベントで、無機質なイメージが強かった。今回はそのイメージを変えてしまうような色鮮やかなイベントで、今後の時空の広場の可能性を広げてくれたと思う。大阪の中心という好立地を活かした、楽しいイベントを期待したい。

3) 「トビウオ丸ごと 濃縮だしが自販機で買えます」

焼いたトビウオ「焼きあご」を丸ごと1匹漬け込んだペットボトル入りのだしの自動販売機が、広島市中区立町の目抜き通りに設置され、市民を「ギョッ」とさせている。

だしを作るのは江田島市の「二反田醤油 しょうゆ」。二反田博文社長（55）が9年前、醤油やみりん、炭火焼きにした長崎県平戸産のトビウオなどで仕上げ、呉市にある直営のうどん店でも使ってきた。

「だしだけ欲しい」という声を受け、濃縮だしの自販機を店先に設置。広島市からも買いに来る人が多く、増設となった。

1本 650円（500ミリ・リットル入り）で、うどん12杯分に使える。担当者は「あごが落ちるほどいい味。広島の新名物になれば」という。

ペットボトル入りのダシはスーパーなどで販売されているが、それが自販機で買えるということ目ざす。これは料理に使用するダシだが、うどんやそばのダシを一口飲んだ時のあの「あー、日本人でよかった」と思う瞬間をいつでも味わえるように、ペットボトルでゴクゴク飲めるダシも是非自販機で販売して欲しいと思った。コーンポタージュやおしるこの部類に入らないだろうか・・・？！